

## 第2章 子どもと子育て家庭を取り巻く状況

### 1 少子化の進行

#### (1) 年齢別（3区分）人口の推移（鎌倉市）

本市の人口は、昭和64年以降減少が続きましたが、平成11年以降増加に転じ、平成17年に平成7年以来の17万人を超えました。

0歳から14歳までの年少人口は、平成4年に老年人口（65歳以上）を下回りましたが、近年、子育て世代の転入などの影響により、年少人口も若干増加しています。

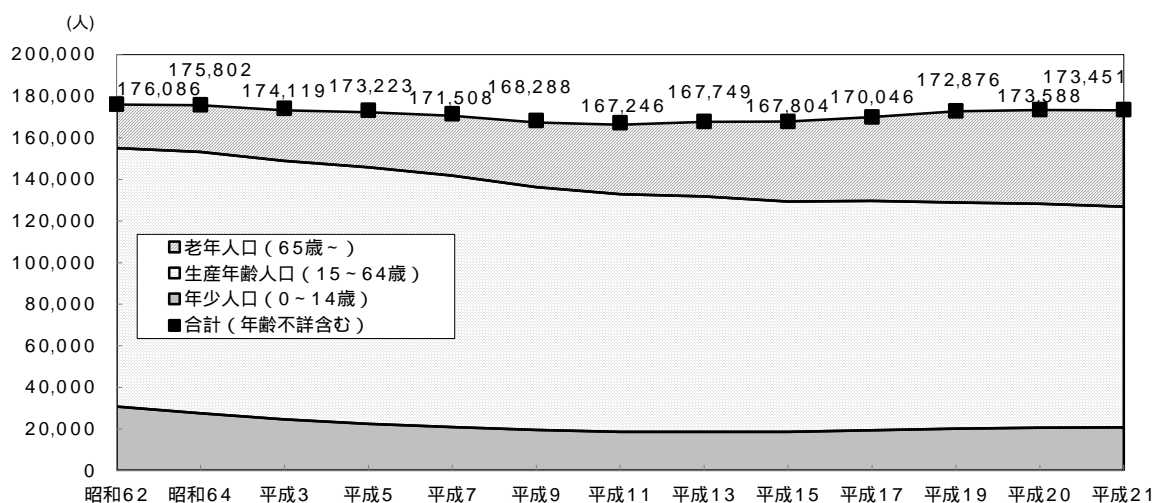


図 年齢別（3区分）の人口推移（面グラフ）

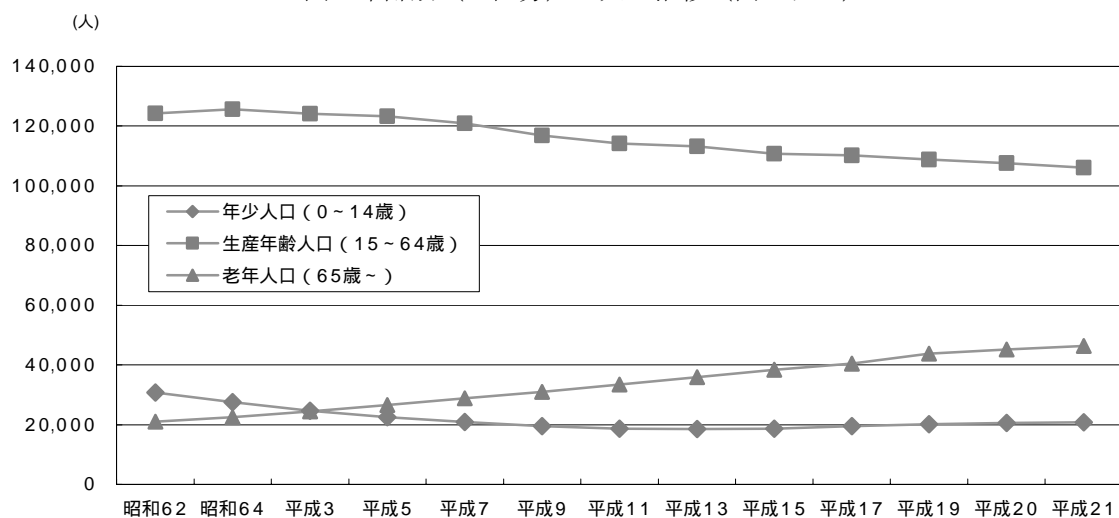


図 年齢別（3区分）の人口推移（折れ線グラフ）

資料：神奈川県年齢別人口統計調査結果  
各年1月1日現在

## (2) 地域別児童人口（0～14歳）の推移 （鎌倉・腰越・深沢・大船・玉縄地域）

児童人口は近年増加しており、なかでも鎌倉地域の伸びが顕著で、平成21年度は前年比104.0%の伸び率となっています。

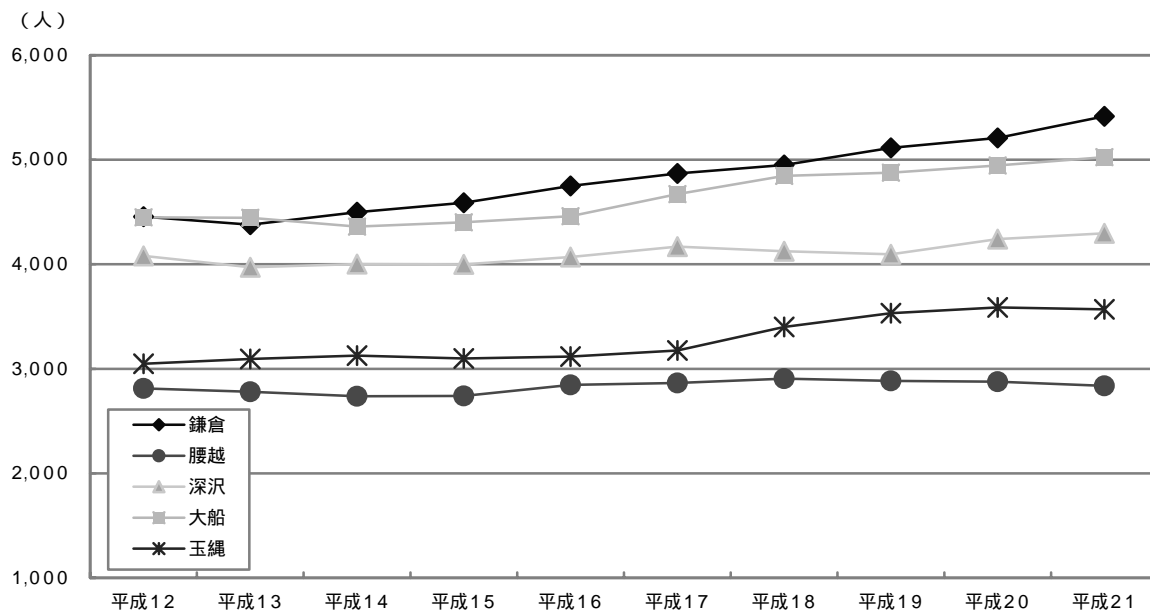


図 地域別児童人口（0～14歳）の推移

資料：住民基本台帳  
各年4月1日現在

## (3) 出生数の推移（鎌倉市）

本市の出生数は、平成18年から2年連続で増加していましたが、平成20年で減少しました。

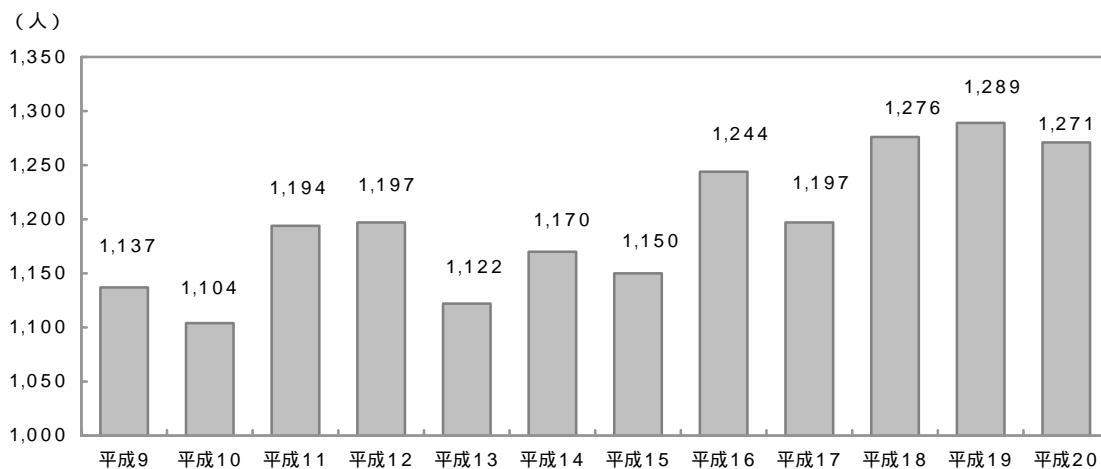


図 出生数の推移

資料：神奈川県衛生統計年報

#### (4) 合計特殊出生率\*の推移 (全国・県・鎌倉市)

本市の合計特殊出生率\*は、全国や県を下回って推移していますが、本市ではここ数年上昇傾向にあり、平成20年に1.11まで回復しました。

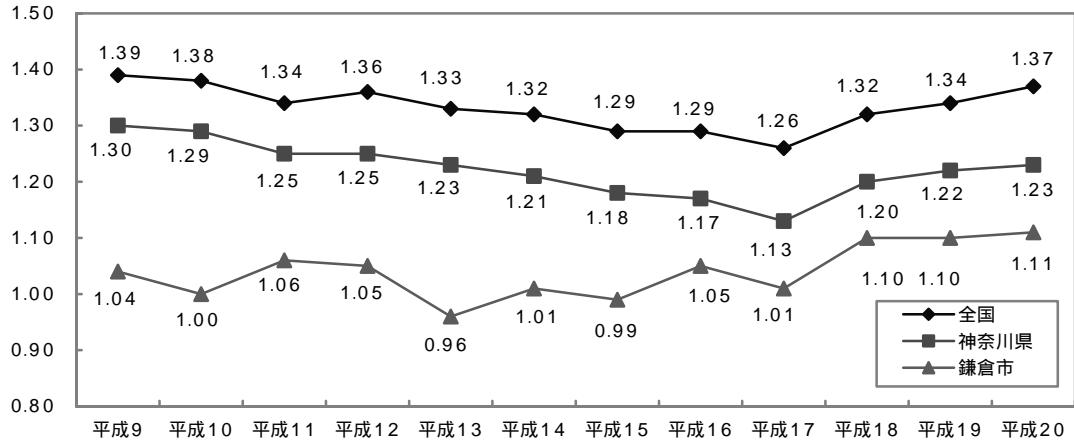


図 合計特殊出生率\*の推移

資料：(全国) 厚生労働省「人口動態統計」  
(神奈川県・鎌倉市) 神奈川県衛生統計年報

## 2 少子化の要因

### (1) 晩婚化 (平均初婚年齢の推移) (全国)

平均初婚年齢は、平成20年で、夫が30.2歳、妻が28.5歳となり、晩婚化が一層進んでいます。

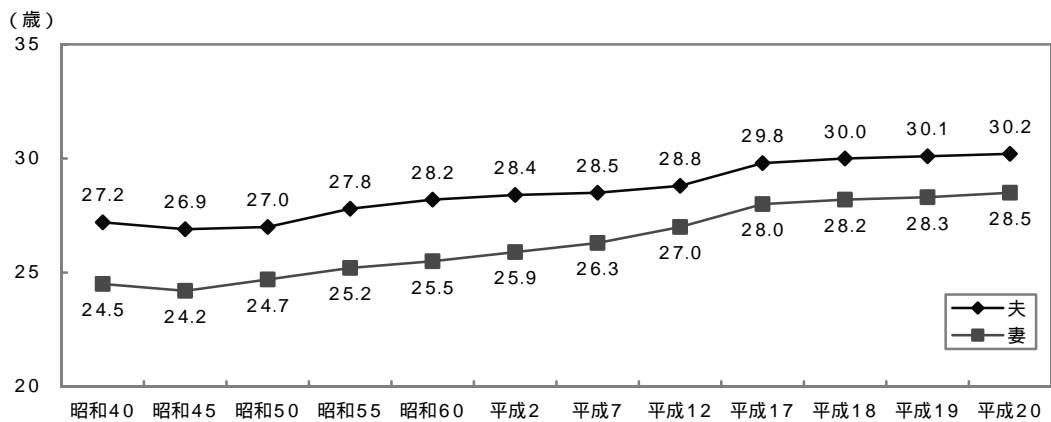


図 平均初婚年齢の推移

※昭和40年は、結婚式を挙げた時の年齢、それ以降は結婚式を挙げた時または同居を始めた時の年齢。  
資料：厚生労働省「人口動態統計」

## (2) 未婚化（未婚率の推移）（全国・県・鎌倉市）

年齢別の未婚率をみると、男女とも上昇傾向にあり、晩婚化が進行しています。特に女性の30～34歳で、顕著に未婚率の上昇がみられます。また、本市の未婚率は全国、県を大きく上回っています。

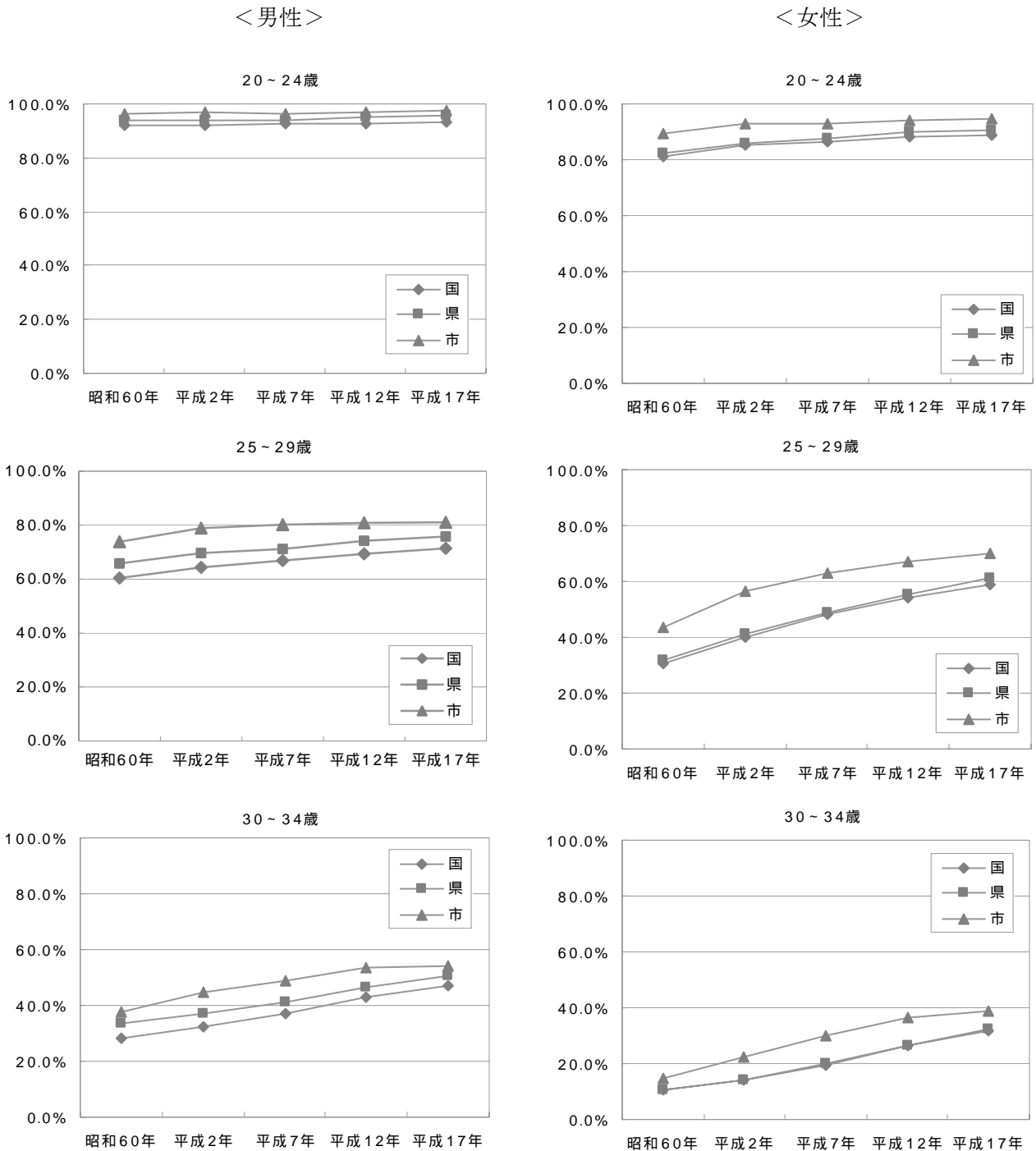


図 未婚率の推移

〔資料：国勢調査〕

### (3) 晩産化（母親の平均出生時年齢の推移）（全国）

晩婚化の傾向に伴い、出生したときの母親の年齢も遅くなる晩産化が同時に進んでいます。昭和50年には、第1子出生時の母親の平均年齢は25.7歳でしたが、平成20年には29.5歳と3.8歳上昇し、その結果、第2子、第3子出生時の平均年齢も上昇しています。高年齢になると出産を控える傾向にあるため、晩産化は少子化の一因とされています。

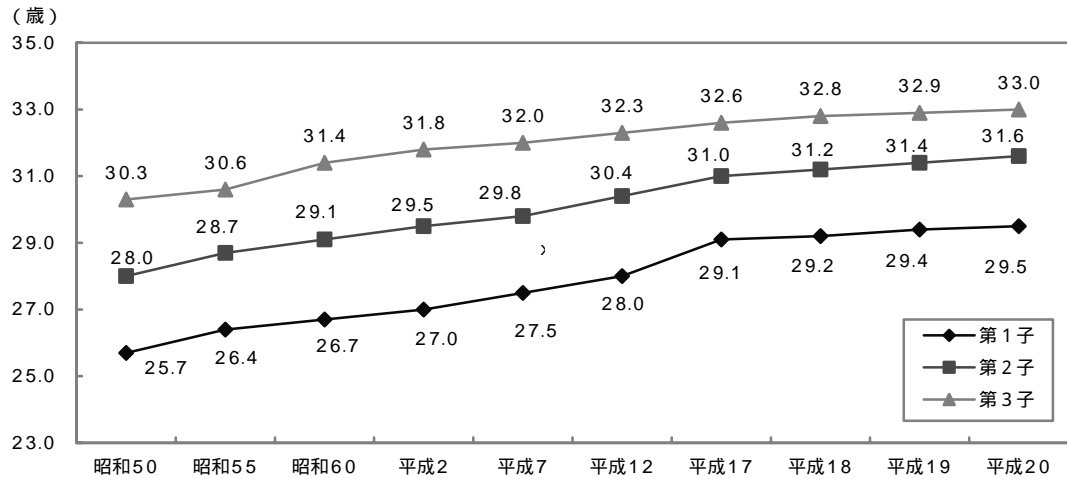
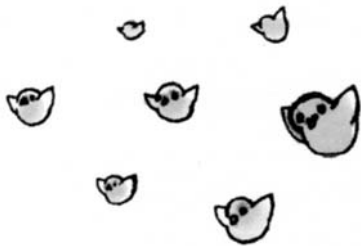


図 母親の平均出生時年齢の推移

〔資料：厚生労働省「人口動態統計」〕



#### (4) 理想的な子どもの数と持つつもりの子どもの数の違い (鎌倉市)

理想子ども数と持つつもりの子どもの数が異なる理由として、就学前児童、就学児童ともに「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっています。就学前児童においては、「保育サービスが充実していないから」、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」の割合が高くなっており、保育サービスや一時預かり事業の充実が求められています。

また、就学児童においては、「高年齢で生むのはいやだから」、「子どもがのびのび育つ社会環境ではないから」の割合が高くなっています。

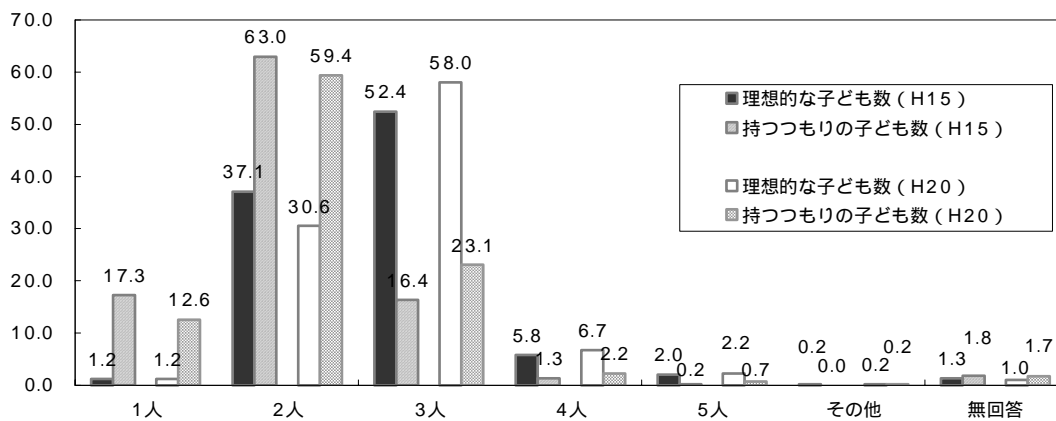


図 理想的な子どもの数と持つつもりの子どもの数

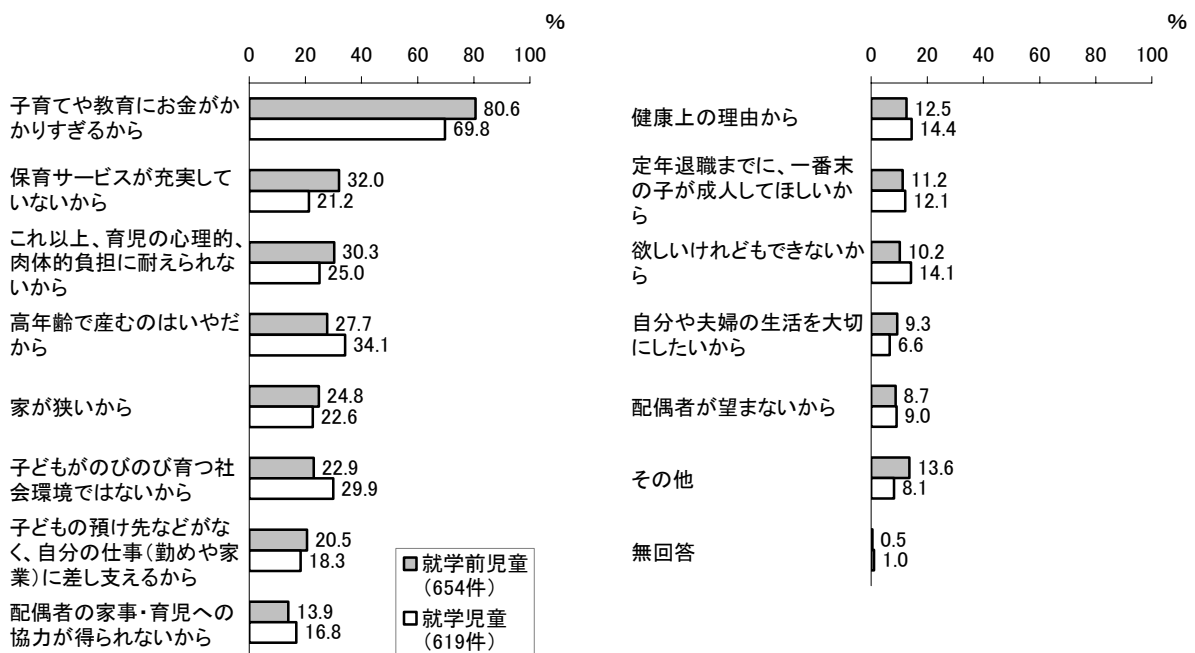


図 理想的な子どもの数と持つつもりの子どもの数が違う理由

### 3 就労状況と子育て

#### (1) 父親、母親の就労状況（鎌倉市）

父親の就労状況を見ると、「常勤」の割合が約 9 割となっています。母親の就労状況を見ると、就学前児童では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が最も高く、結婚や出産を期に離職したことが伺えます。また就学児童では「パートタイム、アルバイト等」の割合が高く、離職後、再就職をすることの困難さが伺えます。

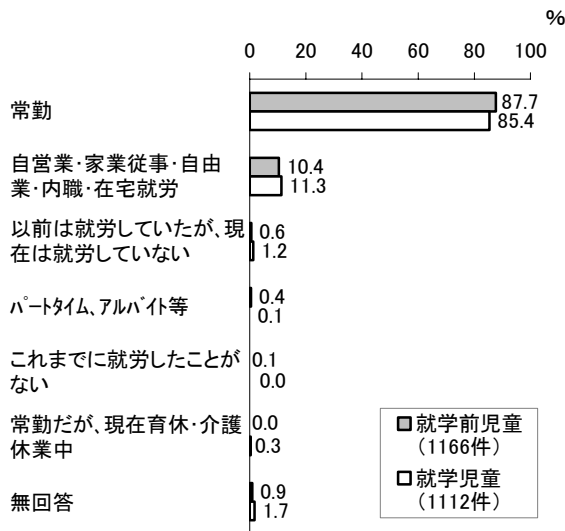


図 父親の就労状況

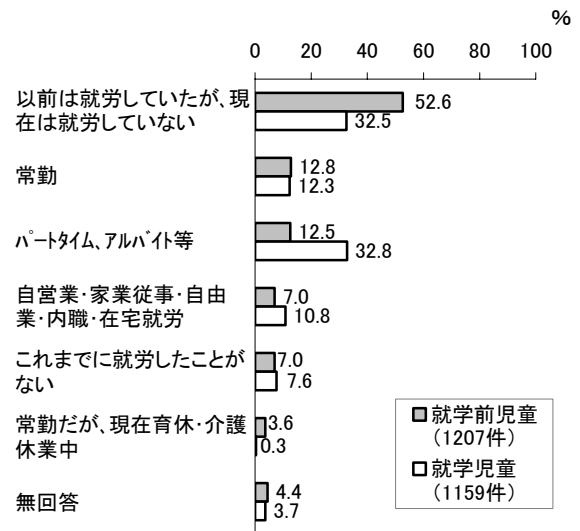


図 母親の就労状況

#### (2) 父親が子育てにかかわりづらい理由（鎌倉市）

父親が子育てにかかわりづらい理由についてみると、「残業などが多く、仕事を優先せざるをえない」の割合が約 8 割となっており、仕事と家庭生活の両立ができていないことが伺えます。

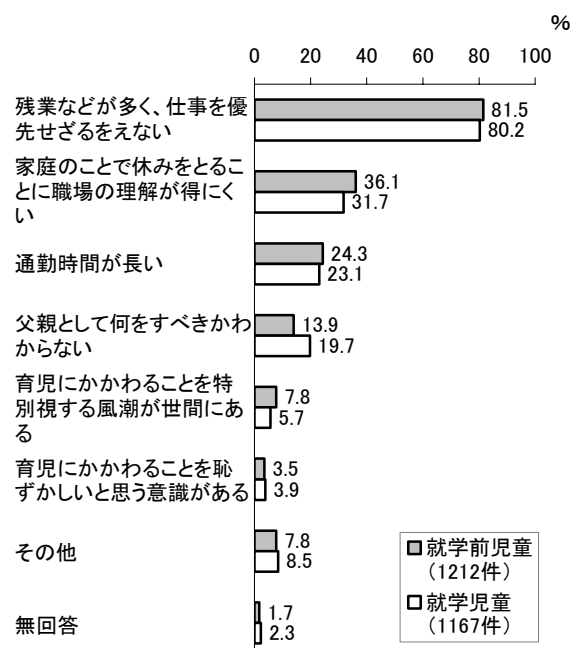


図 父親が子育てにかかわりづらい理由

### (3) 母親の出産による離職状況（鎌倉市）

母親の出産による離職状況を見ると、「継続的に働いた」の割合が19.0%となっており、約8割の人が出産に伴い離職していたことが分かります。

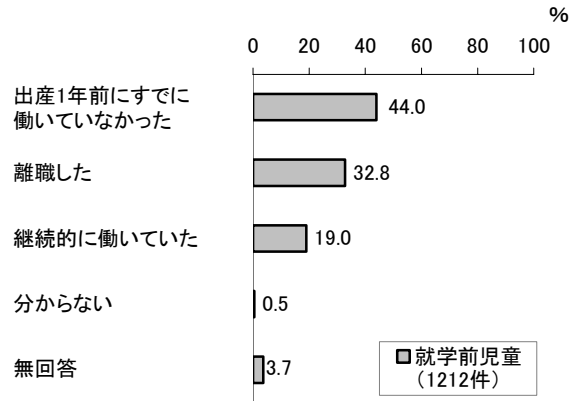


図 母親の出産による離職状況

## 4 保育の状況

### (1) 保育所の入所児童数等（鎌倉市）

平成21年4月現在、本市には17（公立7、私立10）の認可保育所（認定こども園の認可保育所を含む）があり、入所児童数は、平成14年度の1,268人から平成21年度の1,669人まで、401人の増加となっています。

また、定員に対する入所率についても、同様の傾向を示しており、平成21年度には、108.7%となっています。

表 平成21年度 認可保育所の定員数・入所児童数等

区分	公立	私立	合計
保育所数	7	10	17
定員数（人）	650	886	1,536
入所児童数（人）	712	957	1,669

資料：保育課  
平成21年4月1日現在

表 認可保育所の定員数・入所児童数等の推移（受託児含）

区分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
保育所数	14	14	15	15	16	16	17	17
定員数（人）	1,264	1,264	1,295	1,315	1,375	1,411	1,506	1,536
入所児童数（人）	1,268	1,303	1,307	1,364	1,442	1,484	1,602	1,669
入所率（%）	100.3	103.1	100.9	103.7	104.9	105.2	106.4	108.7
利用率（%）	17.7	17.9	17.3	17.4	17.9	18.4	19.8	20.6

※入所率は、定員に占める入所児童数の比率を示し、利用率は、0～5歳の人口に占める入所児童数の比率を示す。  
資料：保育課 各年度4月1日現在



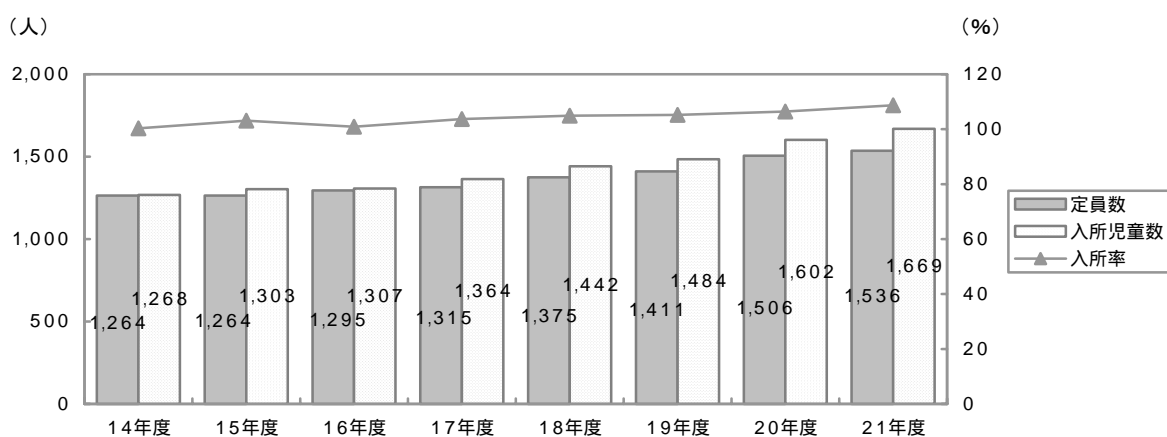


図 認可保育所の定員数・入所児童数等の推移

## (2) 保育所利用率の推移 (鎌倉市)

認可保育所の利用率(0～5歳の人口に占める入所児童数の比率)は、平成14年度の17.7%に比較すると、平成21年度では、20.6%となっており、2.9%増加しています。

表 認可保育所の0～5歳人口・保育児童総数等(受託児含)

(単位:人、%)

区分	0～5歳人口	保育児童総数	利用率
平成14年度	7,168	1,268	17.7
平成15年度	7,261	1,303	17.9
平成16年度	7,556	1,307	17.3
平成17年度	7,830	1,364	17.4
平成18年度	8,042	1,442	17.9
平成19年度	8,072	1,484	18.4
平成20年度	8,094	1,602	19.8
平成21年度	8,121	1,669	20.6

資料: 保育課  
各年度4月1日現在

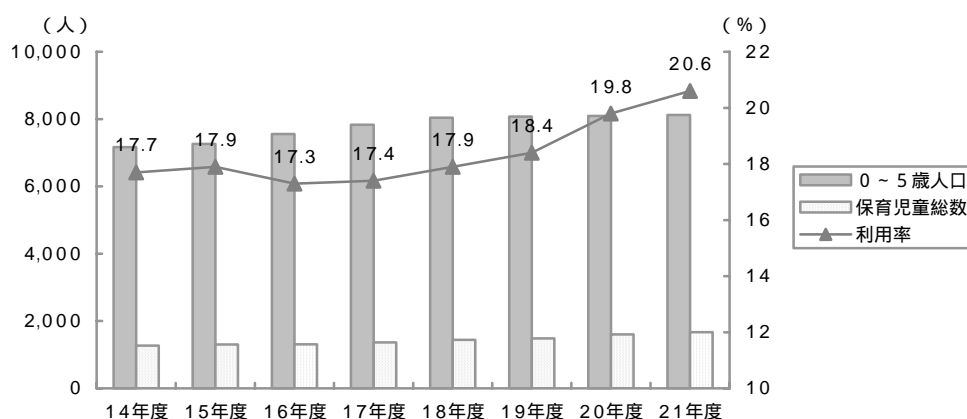


図 認可保育所の0～5歳人口・保育児童総数等

### (3) 待機児童\*数の推移（鎌倉市）

保育所待機児童\*数については、平成21年度は44人となり平成18年度の41人を上回りました。また0～2歳の低年齢の待機児童が多くなっています。

表 年齢区分別保育待機児童\*数（市）（受託児含）

（単位：人）

区分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
0歳	2	1	3	4	3	3	3	9
1歳	8	5	18	9	16	9	15	16
2歳	4	2	2	11	15	15	15	15
3歳	4	2	4	3	5	5	1	4
4歳以上	2	4	3	2	2	0	0	0
合計	20	14	30	29	41	32	34	44

※平成15年度以降は、新定義による待機児童数  
資料：保育課 各年度4月1日現在

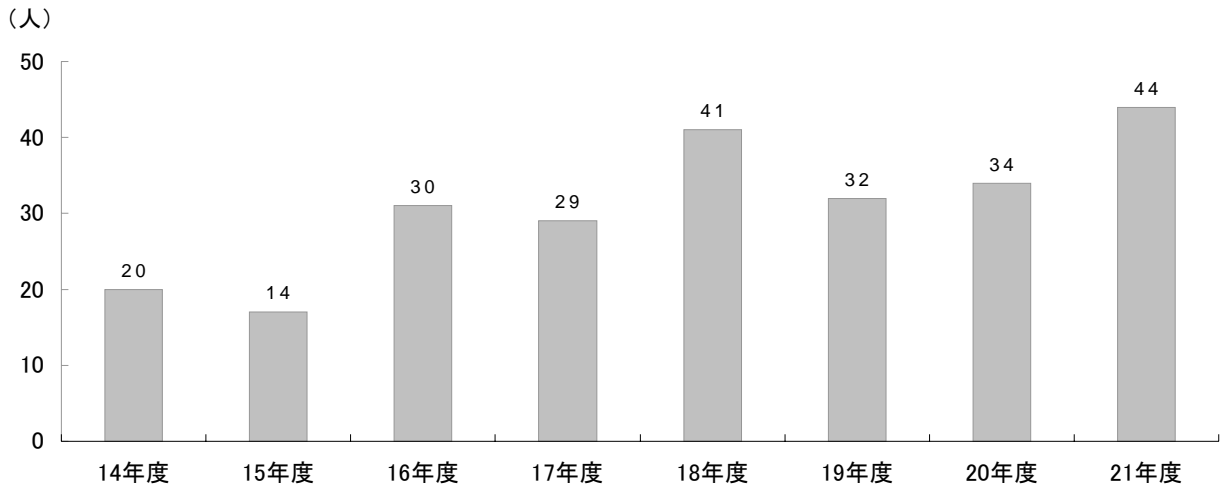


図 待機児童\*数の推移



#### (4) 幼稚園の児童総数

本市には、幼稚園が23園（私立のみ）あり、鎌倉市在住の在園児童数は2,614人となっています。

表 幼稚園の定員数・在園児童数等

区分	公立	私立
園数(園)	—	23
定員数(人)	—	3,996
在園児童数(人)	—	2,614

表 幼稚園の定員数・在園児童数等の推移

区分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
園数(園)	23	23	23	23	23	23	23	23
定員(人)	3,865	3,845	3,845	3,905	3,955	3,955	3,986	3,996
在園児童数(人)	2,216	2,226	2,370	2,510	2,640	2,706	2,671	2,614
入園率(%)	57.3	57.9	61.6	64.3	66.8	68.4	67.0	65.4
利用率(%)	60.3	60.5	61.3	62.3	62.9	63.5	63.7	62.5

※入園率とは、定員に対する在園児童の割合を、利用率とは、3～5歳人口に占める在園児童数の割合を示す。  
資料：こどもみらい課 各年度5月1日現在

#### (5) 子どもの家（学童保育）の状況

本市では、平成21年4月1日現在、子どもの家が16か所あり、在籍児童数は、882人となっています。

表 子どもの家（学童保育）の実施箇所・在籍児童数

区分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
実施箇所(所)	14	14	14	15	15	15	16	16
定員数(人)	560	560	560	600	600	600	640	655
在籍児童数(人)	480	413	480	587	613	696	799	882
在籍率(%)	85.7	73.8	85.7	97.8	102.2	116.0	124.8	134.7

資料：青少年課  
各年度4月1日現在

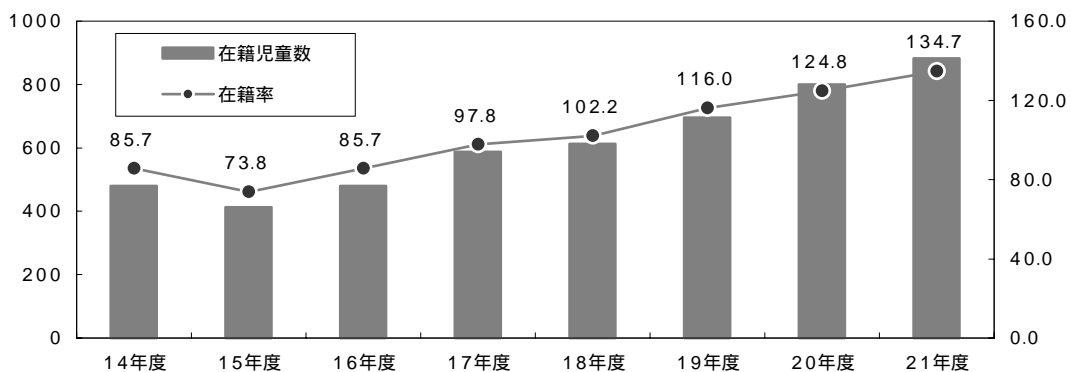


図 子どもの家（学童保育）の在籍児童数と在籍率の推移

## 5 人口推計

人口推計にあたっては、平成 18 年～21 年の住民基本台帳に外国人登録者人口を加算したものをもとに、コーホート変化率法\*を用い推計を行いました。

コーホートとは、同年（または同期間）に出生した集団のことをいい、コーホート変化率法\*は各コーホートについて、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法です。

推計にあたっての考え方および推計のフローは以下のとおりです。

$0 \text{ 歳の人口} = \text{前年の } 15 \sim 49 \text{ 歳の女性人口} \times \text{出生比}$ $n \text{ 歳の人口} = \text{前年の } n-1 \text{ 歳の人口} \times \text{変化率}$ <p>出生比 : 0 歳人口の前年の 15～49 歳の女性人口に対する比率</p> <p>変化率 : n 歳の人口の前年の n-1 歳の人口に対する比率</p>
---

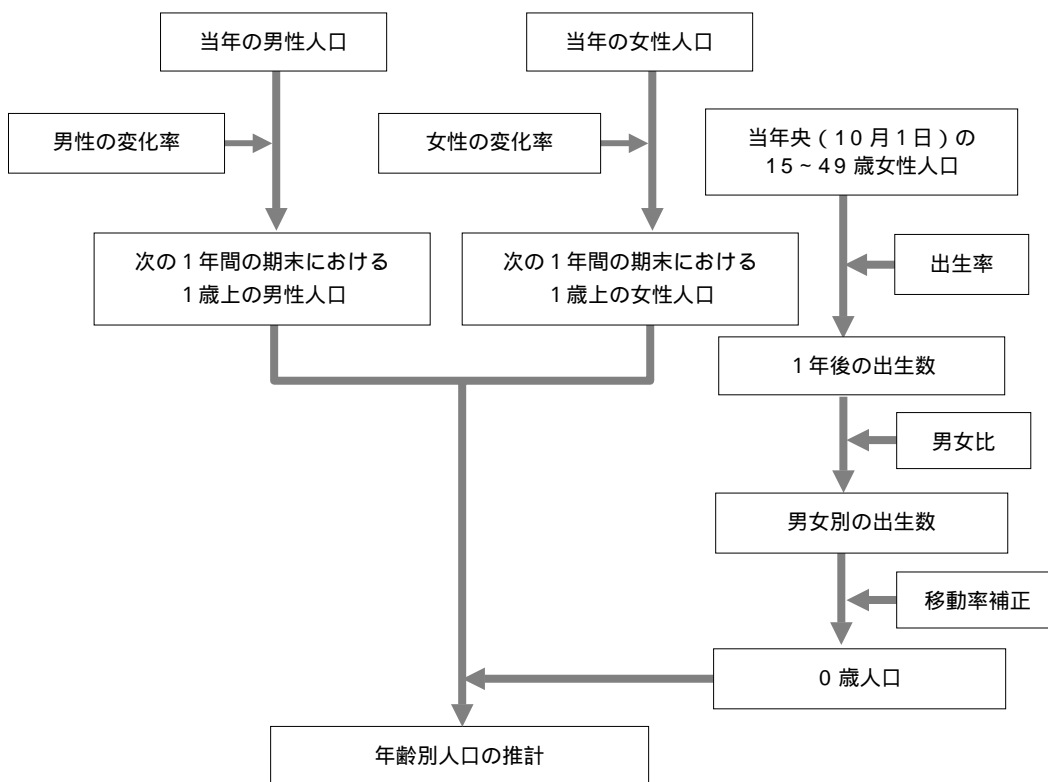


表 全年齢

(単位：人)

年齢	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
総人口	177,405	177,886	178,161	178,484	178,639
0～4 歳	6,677	6,643	6,534	6,320	6,083
5～9 歳	7,472	7,502	7,538	7,634	7,661
10～14 歳	7,145	7,403	7,540	7,743	7,907
15～19 歳	6,733	6,717	6,876	7,013	7,216
20～24 歳	7,333	7,077	6,945	6,851	6,771
25～29 歳	8,372	8,243	8,045	7,776	7,533
30～34 歳	10,765	10,203	9,706	9,194	8,859
35～39 歳	14,374	14,126	13,514	12,904	12,236
40～44 歳	14,002	14,405	15,147	15,479	15,469
45～49 歳	11,860	12,381	12,707	13,278	14,046
50～54 歳	9,778	10,045	10,433	10,943	11,391
55～59 歳	10,815	10,251	9,813	9,580	9,578
60～64 歳	14,133	14,513	14,057	12,835	11,665
65～69 歳	13,223	12,588	12,419	13,015	13,259
70～74 歳	11,373	11,470	11,884	12,066	12,589
75～79 歳	9,805	10,074	10,268	10,400	10,314
80 歳以上	13,545	14,245	14,735	15,453	16,062

表 0～5 歳

(単位：人)

年齢	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
0 歳	1,187	1,154	1,117	1,078	1,041
1 歳	1,328	1,253	1,219	1,180	1,138
2 歳	1,398	1,380	1,301	1,266	1,226
3 歳	1,379	1,437	1,417	1,337	1,301
4 歳	1,385	1,419	1,480	1,459	1,377
5 歳	1,397	1,423	1,458	1,520	1,498
合計	8,074	8,066	7,992	7,840	7,581

\* 推計の実施時期が異なるため、平成 17 年 2 月に経営企画課が発表した第 3 次鎌倉市総合計画第 2 期基本計画進行管理における鎌倉市の人口および世帯数の将来推計とは推計値が異なります。